

プレ冬・冬合宿
報告書

Pre. winter season &
Winter season
1984

Shinshu univ. Alpine Club
信州大学山岳会

目次

フレ冬合宿	
I. 行動記録	1
II. 係からの報告	2
冬合宿	
I. 行動表	5
II. 行動記録	6
III. 行程と高度表	12
IV. 係からの報告	
1. 装備	15
2. Essen	16
3. 会計	18
4. 気象	19
V. 個人の反省	21
VI. 冬山の総括	25

プレ冬合宿 (12/8 ~ 12/10)

遠見尾根 ~ 八方尾根

I. 行動記録

12/8 松本 5:50 ~~→~~ 神城 7:55 — テレキャビン乗場
8:25 ~~→~~ テレキャビン降場 8:50 — 1P (1750m)
10:05 — 2P (ニの背髪) 11:05 — 3P (2000m付近)
12:50 — 4P 14:10 — 大遠見 T.S. 15:05

天気: 快晴

去年より雪はすっと少なかった。テレキャビンを降りて
スパッツはつけたが、わかんはつけなかった。
わかんを着用したのは3ピッチめの途中である。

12/9 T.S. 6:55 — 1P 8:05 — 2P (白岳) 8:30 —
3P (五竜山頂) 10:05 — 4P (白岳) 11:35 5P
13:00 — 6P (2500m付近) 14:00 — 八方尾根上部
T.S. 16:00

天気: 快晴 → 晴

五竜岳の登りで Fix 1本, 下りで Fix 2本を使った。

大黒岳付近にもT.S.はあるが、時間が早かったので
唐松山荘から八方尾根を少し下った所まで行った。
唐松山荘前は雪が少なく、狭く、テントは張れない。
唐松山荘まではずと稜線沿いに行きた。

12% T.S. 6:55 — 1P(八方大池下のケレン) 7:55 —
2P(うさぎ平) 9:00 — 3P(リフト下) 9:45 — 白馬
駅 10:30

天気: 霧 → 曇

八方尾根上部はガスっていたが、下るにつれて
視界が広がり、迷うようなことはなかった。

Member

L. 藤田 鷹取 古賀 (4)

大前 角谷 水谷 森 (2)

岡 川端 三野 (1)

II. 係からの報告

1. 装備 (角谷)

使用量 ガス 190 cc/day/人

メタ 18個

雪アクロ 1袋

— 2 —

ローソク 1.6本/day

とにかくガスの消費量が大きく話にならない。

2. 会計 (水谷)

11/29 (才1回)

$$\underline{5,000 \times 11人 = 55,000}$$

エッセン費 24,510

装備費 5,560

交通費 21,400

残金 3,530円 → 繰り越し金

12/7 (才2回)

$$\underline{2,500 \times 10人 + 3,530 = 28,530}$$

エッセン費 738

酒代 2,000

交通費 23,610

残金 5,712円 → 冬山合宿へ

Essen費 約765円/day/人

3. Essen (大前)

Pre冬合宿は冬合宿に備えて練習実験す

意味をもっている。実験したことは、

- ①米の量 ②アゲパン ③味つけの量
④カラーメン ⑤ペミカン ⑥麻婆春雨、粕汁

であるが、①、③は水の量を多くしすぎてつかめず、

⑥の粕汁は不評だった。麻婆春雨は春雨の量、

⑤のペミカンの量が多すぎた。②、④に関しては

もち、アゲパンはかさばるし重く、全とメリットが

なかった。以上のことからPre冬合宿のEssen

は冬合宿のEssenに比べて「してはならないもの」

を認識する上で役に立った。なお、次回の

冬山Essenの資料として①～⑥の結果を書い

ておく。

①み米→ $\frac{1}{2}$ 袋/人、米もどき→食器 $\frac{1}{2}$ 杯/人(2合/人)

②アゲパンはかさばる上に重いのでよくない。

③冬山Essenの通り。

④カラーメンのもちは必要ない(重さの面で)。

⑤ペミカンの量はわからなかった。

⑥麻婆春雨については冬山Essenの通り

粕汁は不評だった。

冬山合宿 (12/22 ~ 1/3)

親不知 ~ 犬ヶ岳 ~ 三保尾根

I. 行勤表

(①: 74% 地点)

	松本	糸魚川	風浪	二本松	500m 地点	坂田峠	1800m 地点	白鳥山	1240m P	菊石山	1340m 地点	榎海山荘
12/22		電停										
12/23		電停	→									
12/24					→							
12/25						→						
12/26							→					
12/27									FIX 障 ⓕ	→		
12/28												→

	柵海山荘	菊石山	1000m 地点	560m 地点	下山谷 出合	橋立	大沢	糸魚川
12/29	沈没 (大ヶ岳を越え、下り口まで偵察隊が出る)							
12/30	沈没							
12/31		→						
1/1		→						
1/2				→				
1/3						→ バス		

II. 行動記録

12/22 松本 16:42 ~~→~~ 糸魚川 19:50

ステーション・ビバーク。大前は試験のため悪い
電車で。海沿いの飲み屋のあんきもが
この夜の話題をさらった。

12/23 糸魚川 6:00^{77%} 風波 6:40 — 入道山 11:30 —
送電線の先 500m 付近 T.S. 14:40

天気: 雪

風波から夏道を行かずに入道山へ続く屋根に
取りついてしまったため、時間がかかった。積雪は
最初ひや下ぐらいだった。3ピッケルの最初から
わかんをつける。途中からTOPのみ荷物をおろして
ラッセルした。

12/24 T.S. 7:40 — 710m のジャンクション / 12:35 — 坂田
峠 T.S. 15:20

天気: 雪時々あられ

雪は深く、湿雪で、TOPから3人ぐらいが荷物を
おろしてラッセルした。

12/25 T.S. 7:35 — シキワリ 10:10 — 1171m 地点 付近
13:40 — 白鳥山寺前 1205m 地点 T.S. 14:25

天気: 雪

坂田峠からは木の幹にかかれた赤ペンキが
所々あらわれており、それに沿って進んだ。

雪は腰ぐらいまである所もあり、TOPから4人が荷物をおろしてラッセルした。この日以来、11人のメンバーを4・4・3の3つのグループに分け、交代でラッセルをするという方法がずっと使われた。

12/26 T.S. 7:40 — 白鳥山 9:30 — 1241mのP T.S. 13:40

天気: 雪 → 地ふがき

雪はさらに深くなり、所によって胸までもあった。午後になると西風が強まり、フリガードのため目を開けていられないうほどであった。

12/27 T.S. 7:40 — 菊石山 9:45 — 1350m地点 13:40
— 1384mのPの北側 (1340m地点) T.S. 15:20

天気: 雪

T.S. からすぐの下りで、Fixを3本張った。最初の2本は急斜面の滑落防止のため、次の1本はトラバースによる雪崩事故防止のためである。ラッセルは所により胸まで。東側に雪庇が出ている所が多く、注意が必要である。風はあいかわらず西風が強いが時々弱まる。

12/28 T.S. 7:30 — 1450m地点 9:30 — 柵海山荘
10:45

天気: 雪

犬ヶ岳の登りはクラストしていて、所々岩が出て
いるため、アイゼンを使う。西側からの強風で、
時々立ち止まらねばならない。(風速25mぐら
いか) 柵海山荘は冬期も開放してある。悪天の
ため、時間は早い。小屋に泊る。

12/29 沈没

天気: 雪 地ががき霧

小屋の入口に夜の間1.5mぐらい雪が積も
ってしまったので除雪する。まず、鷹取、古賀、中村が
偵察し、次に鷹取、古賀、大前、水谷が再び
偵察に出る。犬ヶ岳山頂を越えて下り口まで行く
が、ホワイトアウトのため、引き返す。この間、
トランシーバーで小屋の残留隊と交信。結局、
11:00に沈没が決定した。

12/30 沈没

天気:雪 地ふつき

さらに積雪量がふえ、小屋の入口が埋まってしまい、除雪に苦勞する。風の向きが一定でなく、強風のため、フリガードがすごい。12:00まで待機し、12:00に沈殿決定。

12/31 柵海山荘 7:35 — 菊石山 13:05 — 三保尾根
1014のPの下、1000m地点付近 T.S. 14:30

天気:雪時々曇

予定を変更、三保尾根をエスケープすることにした。柵海山荘から菊石山までは相変わらず西風が強かったが、三保尾根に入ると風は弱まった。雪は湿っていて重く、腰ぐらいまであった。

1/1 T.S. 7:30 — 三保倉 (971.9m) 11:30 —
852mのP 13:00 — 870m地点 13:20 —
560m地点緩傾斜地 T.S. 15:20

天気:曇時々雪

風は弱く、雪がふっているがあたたかい。852mのPまで一部分、尾根がヤセていて、東側に雪庇が大きく張りだしていた。870mの中より北北西

に延びる尾根を通り、それから東の尾根に入る
予定だったが、西北面の尾根に入ってしまふ。
急な細い尾根を下り、東へ谷をトラバースする。
472mの中に続く尾根に取りつく手前でテントを
張る。

1/2 T.S. 7:30 — 河原(橋付丘) 9:15 — 広い河原、
(収水口) 11:40 — 金山谷との出谷 13:30 —
橋立 14:55 — 橋立分枝の先(林道) T.S. 15:45

天気 曇時々雪

アガキ谷とアイサワ谷の出合の少し北の河原に
降りるが橋が見つからず、対岸の道も危険だった
ので、登り返して、収水口の河原に降りる。

収水口の橋を渡るが対岸のトンネルが雪に
埋まっており、トンネルの上を越える。金山谷との
出合にあるはずの発電所の合宿所は見当りな
かった。林道はトップのみかり身でラッセル。
50歩交代とした。橋立は一軒だけ人の気配
があったが、コンタクトはとれなかった。

非常の際の連絡ぐらいはできるだろうが、
いつも人がいるとは限りないかもしれない。

1/3 T.S. 7:25 — 清水倉 8:00 — 大沢 8:45 —
 大沢バス停 9:10 ~~バス~~ 糸魚川 9:40

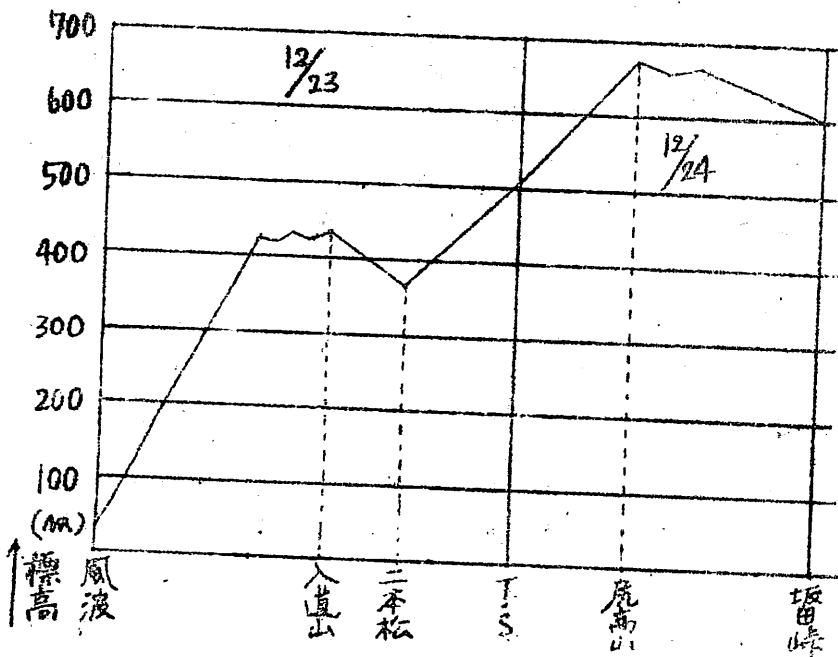
天気:曇

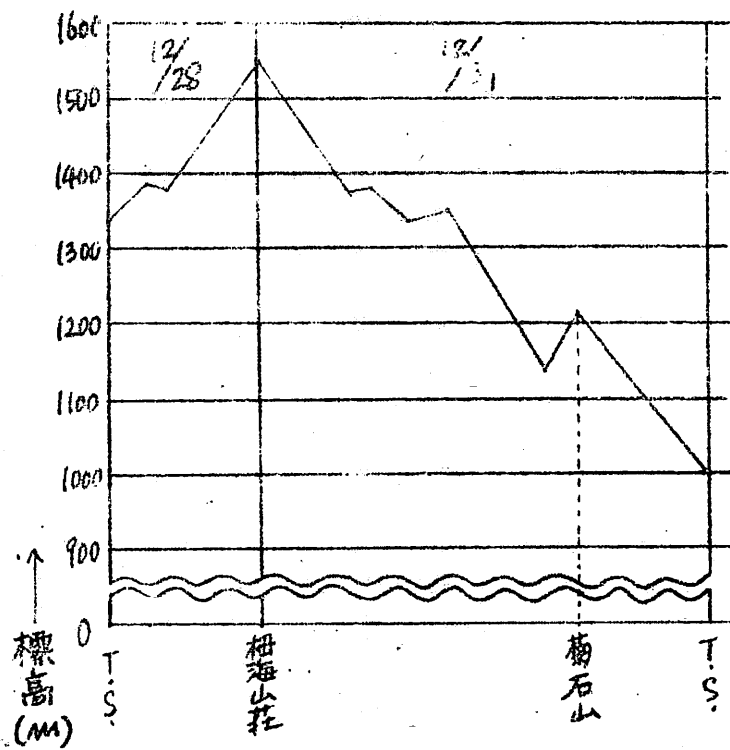
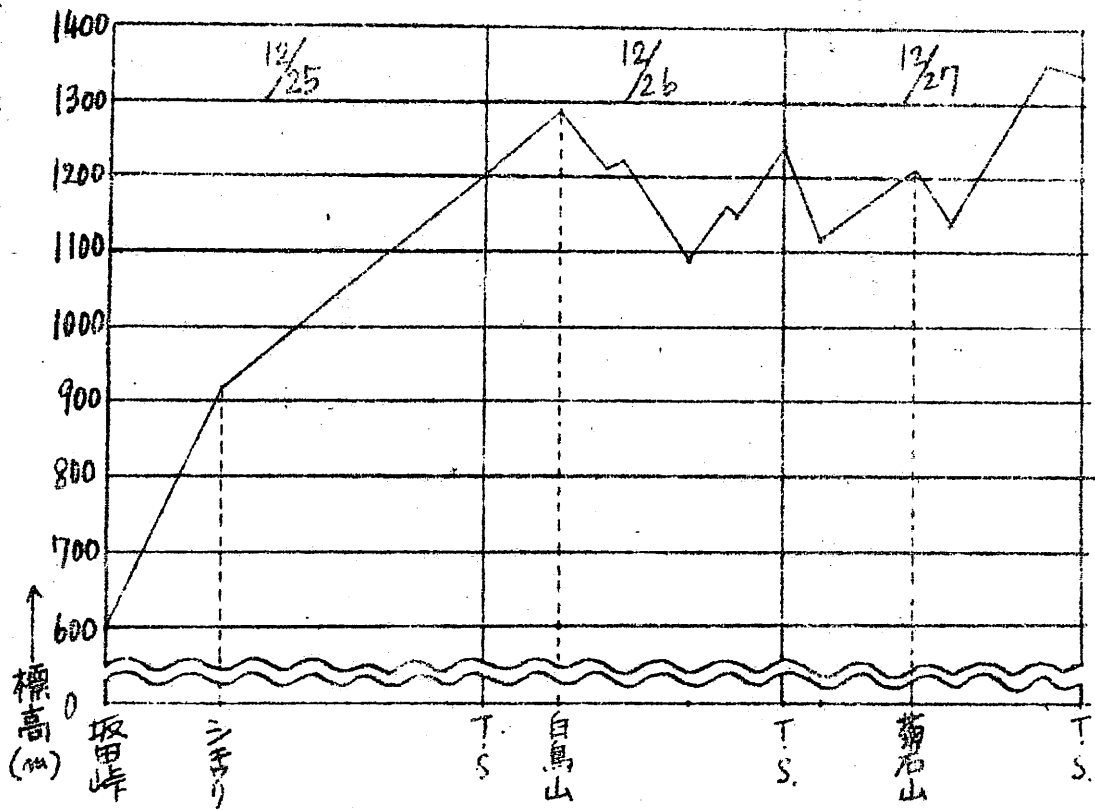
大沢の北南の石灰の工場までラセル車が入っていた。大沢のバス停から糸魚川までのバスは本数も結構ありそうだった。

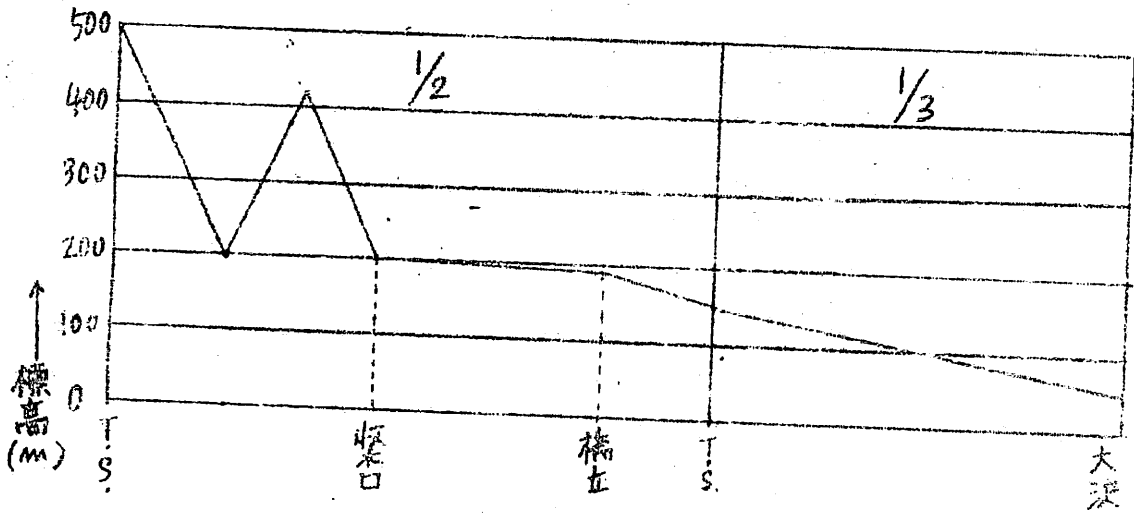
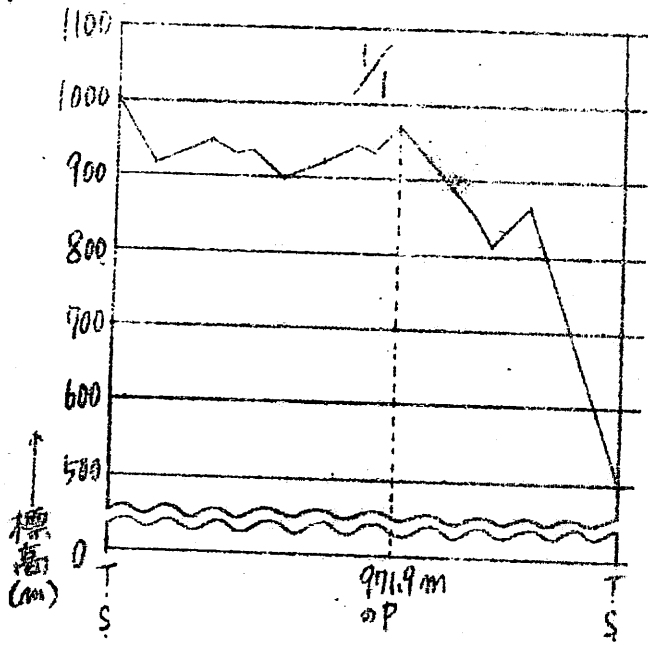
Member

C.L. 鷹取 S.L. 古賀 中村 藤田 (4)
 大前 角谷 水谷 森 (2)
 岡 川端 三野 (1)

III. 行程と高度表







*横軸の距離 1cm = 約0.5km

IV. 係からの報告

1. 装備 (角谷)

使用量 ガス 総使用量 約17L

入山 ~ 12/30 137cc/day/人

トータル 140cc/day/人

メタ 0.85箱/day

ローソク 0.6本/day

トイペ 2個使用

竹ペグ 4本紛失

はし 3組紛失

雪ぶくろ 5枚使用

しゃもじ 1紛失

スコップ 1忘れろ

ラジオ・トランシーバー用予備電池は使用

せず。

ガスの使用量は入山から12/30まで137cc/day/人。

その後の食いつぶし等で結局140cc/day/人となる。

ほぼ計画通りであるが、Essenのやり方次第で

まだまだ減らせろと思う。あと、雪ぶくろの消費が

激しかったのと、ハシ等Essen具の小物の紛失が

気になった。1年生は特に装備のあつかいが雑

だった。生活, Essen 技術等もっと気をつけたい。
トイベは多すぎた。

2. Essen (大前)

全体的にみて 今回の Essen はよかったと思う。
味の面でも問題はなかったし、軽量化もよかったと
思う。今後、夕食は雑炊というパターンが定着すると
考えられ、質・量等の数字をできるだけ詳細に
明記することにする。

Breakfast

・乾燥野菜 A にオウレン草を入れたのは失敗!

アクが強すぎて味が悪くなった。

・マカポテのルーとして ホワイト・ソース 1.5 人分/人をベース
とし、他に味付けを考えた。カレー、ドレッシングとも
本人分/人として計算したがベースのルーが多いため
味付けとしてはうすかった。 1 人分/人が適当。マカポテ
の材料もマカロニを他のものにかえる等、工夫
できる。

Lunch

・イワタレパン 3 人分はマーガリン、砂糖で味付けした
が重すぎるため適当ではない。

・バスケットは実働 1808/人 予備 1608/人とした。
少し少ないような気がしたのでもう少しやしてもよい。

Dinner

・総体的に味つけはよかったがおむすび山おじやはまずかった。それと野沢菜茶漬、とり雑炊、おむすび山おじやと、よく似たメニューが多かったため、もう少しバラエティーに富んだものにすべきだった。
・麻婆春雨は素 2.5人分/人 春雨 278/人でよかった。
・正月の石狩鍋はあまり評判がよくなかった。
・ペミガンはさけ 408/人だったが マス等、安価の魚で量をふやす必要がある。それと目玉と「なる品目をもっと多くすべきだった。
・飯の量は米もどき 2合/人、み米 1袋/人として計算した。1年にとっては少ない印象をうけたかもしれない。もう一度検討してみてもよいだろう。

おやつ

・スープ、みそ汁、ココアは需要が多かった。
おやつの飲物は濃厚な味のものの方がよい。

Essen 袋

消費量 塩約200g, ニシキ(小)100g, 七味(小)
0.52g, 砂糖約0.7kg, ほんだし100g,
コンソメ 42コ, 中華あじ100g, 日本茶約2.2袋
以上を12日間で消費した。

量を減らせるもの ほんだし300g → 150g

コンソメ 100コ → 70コ

片栗粉 ×2 → いらない

砂糖 2kg → 1.2kg

増やす必要のあるもの 中華味100g → 150g

(注) 今回の実働10, 予備8, 人数11人を考慮した
上での量

3. 会計 (森)

$$\frac{1人 20,000 \times 11人 + 5,712 (Pre冬(リ=レ)) = 225,712}{}$$

エッセン費 111,687

装備費 38,077

交通費 (電車で) 32,200

(タクシー代) 11,640

(バス代) 4,400

酒代・コーヒー代 9,960

残金 17,748円

1人当り分配 1600円×11=17,600円

残金 148円 → 郵費へ

Essen費 約597円/day/人

4. 気象 (中村)

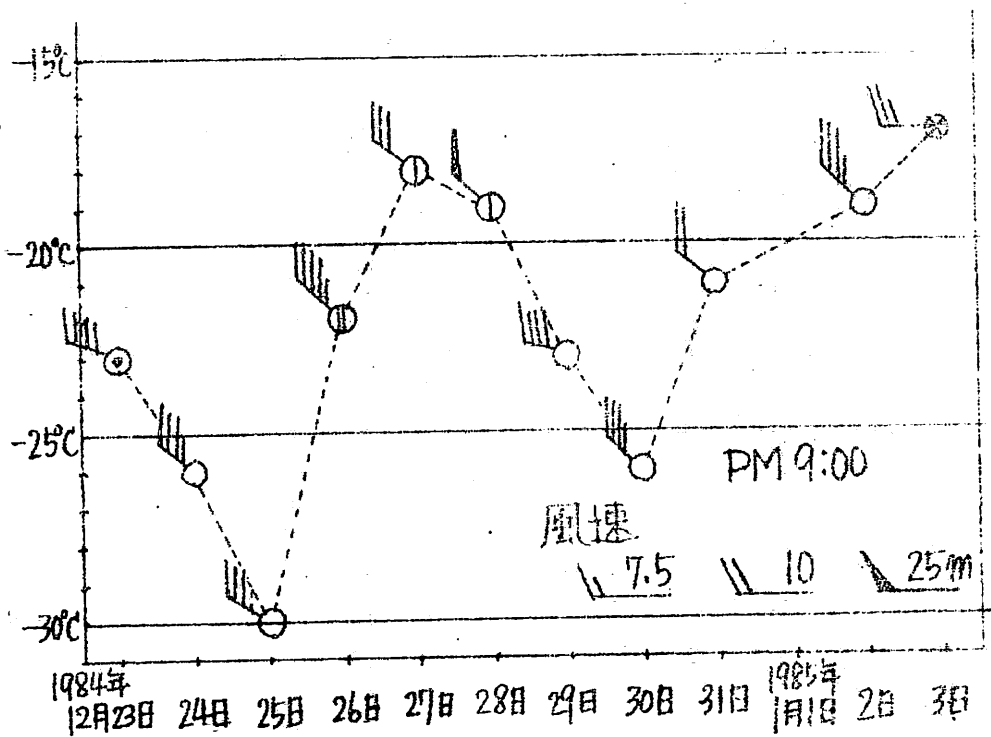
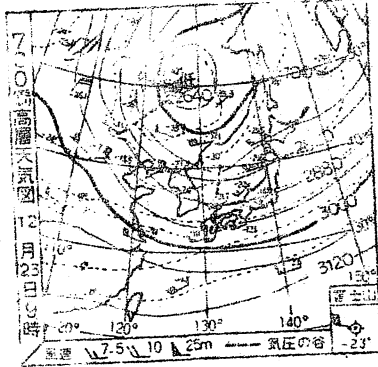
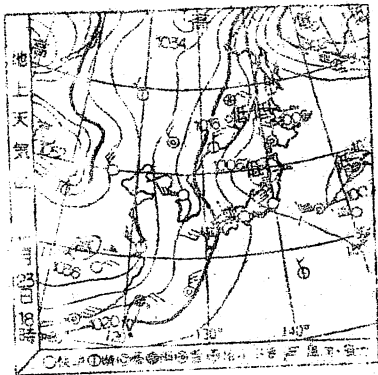


図. 富士山における気温, 風向, 風速, 天気の変化

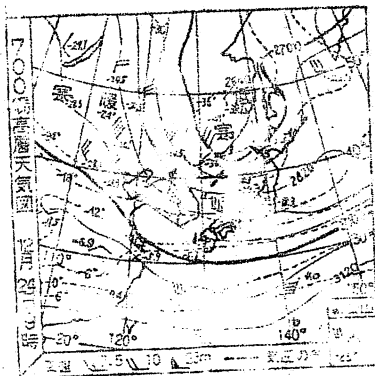
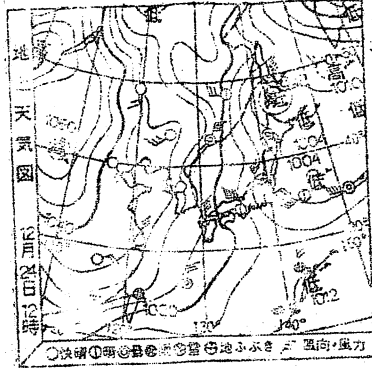
全期間を通して毎日のように雪が降り続いた。
天気図もそれをよく表しており、どの図を見ても。

西高東低の気圧配置となっている。富士山で天候の変化もこれをよく示している。たとえば風向はつねに西と北の間、天気も快晴の日がめだつ。特に気温の低い日ほど天気が良い。特に注目したいのは気温の変化である。同じような冬型の日が続いているが、寒気のコルが本州に最も近づいた12/25と1/30をピークとして明らかなる気温の低下がみられる。冬山の場合、気圧の変化はもちろんのこと、このような気温の変化にも充分注意が必要である。今回は最高到達点でも標高1600m以下と低かったことから、果たして高層天気図が役に立ったかどうか検討してみたかったが、あまりに変化が少なかったため、何とも言えない。(気象担当としては、「明日も同じ」と答えればよく、メキクメキ楽な山行であった) それにしても新聞のお天気欄を読んでいると、「山岳方面では新雪表層雪崩の起りやすい状態ですので注意が必要」とか、「山岳地帯では引き続き雪崩に注意が必要」とか、「強風に対する注意が必要」とか、いうコメントが「やたら目立つけど」テントまで毎朝新聞を届けてくれるのならともかく、何の役に立つんでしょね。

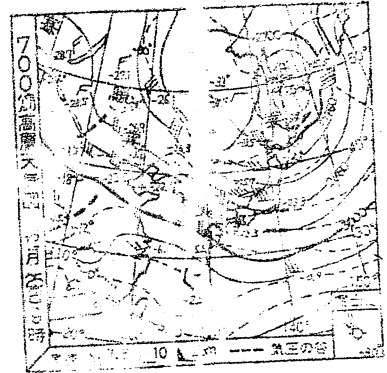
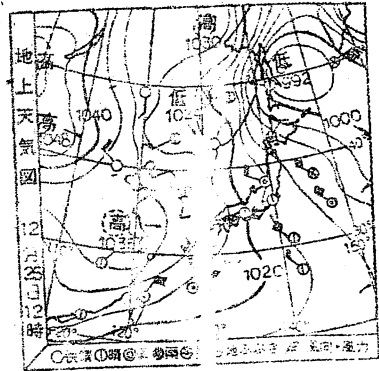
1984年
12月23日 ①-時 ②
今冬一番の寒気が南下



12月24日 ①
典型的な冬型に



12月25日 ①
厳しい冷え込み

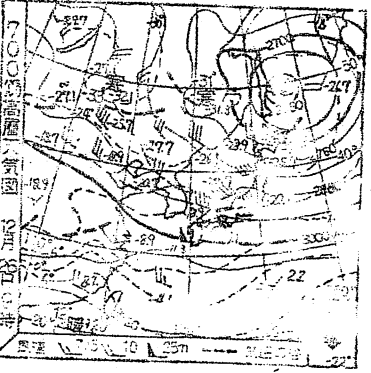
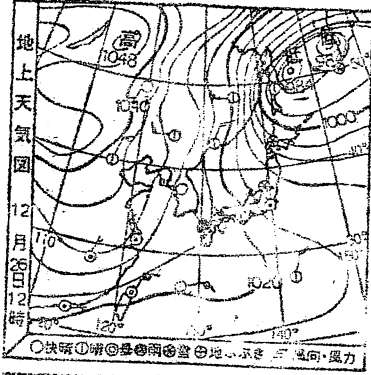


北半球を代表するきわめて強い寒気の渦が大陸北東部にあって、したりに南下。日本付近はすでにこの影響下にある。10時ころ小雪が降り出す。高雲の登りが多くなり、風は海から水蒸気が登るのが見える。風は標高をかせぐにしたがって強くなる。

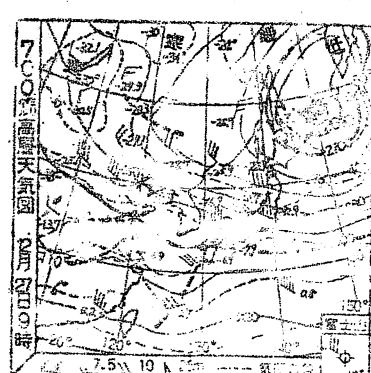
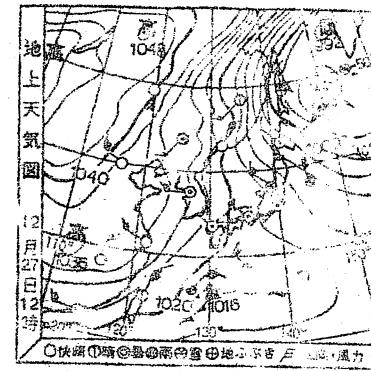
オホーツク海には台風並みに発達した低気圧があり、大陸から優勢な高気圧が張り出してきて、典型的な冬型の気圧配置になってくる。大陸の非常に強い寒気が沿海部から日本海へ南下する。午後強くなり、雪が降り出し、直後カミナリがある。(豊日本名物冬の夕立ち) 風雪とも一時弱まるがすぐに強くなる。視界500メートル以下

低気圧はほとんど停滞、サハリン南部から北海道北部の上空約五千メートル付近には米点下50℃以下の強い寒気渦がある。しかし、北海道付近にあつた寒気の中心が東へ抜けたため、寒気は越えたものと考えられる。午後風雪ともに強い。視界は100-200m。午後から風雪ともに弱まり、視界も少し回復する。

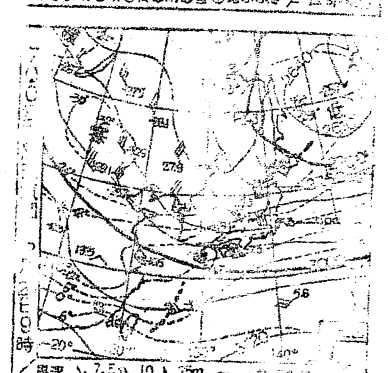
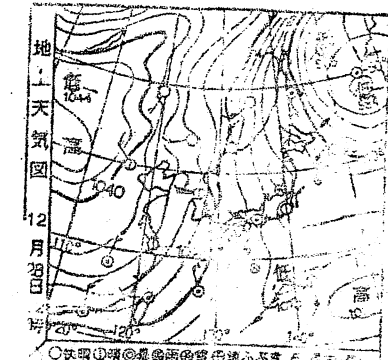
12月26日 ⊗
一時寒気ゆるむが...



12月27日 ⊗
高気圧が停滞



12月28日 ⊗
新たな寒気が南下



西高東低の気圧配置が続いているが、大陸の高気圧は東に張り出し、中国大陸から本州の間東方面を広くおおきく、等圧線の間隔も広がっている。寒気は縁を越え、冬型の気圧配置が弱まるが、北日本を中心に引き続き冷たい寒気があふれる。視界は500m。曇り。昼ごろから風雪とも強くなる。視界は50mと100mにおちる。西風中心ではあるが、設置時四方からの風にあい手まじむ。

オホシツク海にある低気圧、バイカル湖付近の高気圧の中心ともに停滞して気圧配置は昨日とほとんど変わらず。バイカル湖付近にある30以下の強い寒気圧がしだいに南下。天気は昨日とほとんど変わらず。視界は500m。昼すぎからガスが出てくる。雪は弱く。テント設置が強く降り出す。

中国東北に上空約5000m付近には氷点下44℃以下の強い寒気があり、南下中。オホシツク海の寒気は弱くおち弱まったものの、新たな寒気が南下してきており、冬型の気圧配置がしばらく続きそうである。今までの最悪の天気。風雪ともものすごい。エビのシツホも10cmくらいに発達している。風が強いのは地形との関連もあるようだ。風がとけられ視界が広がることがある。雲が

12月29日



冷え込みは厳しい

12月30日

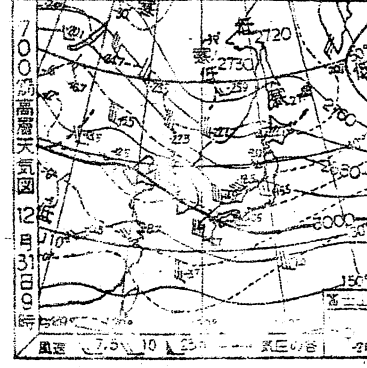
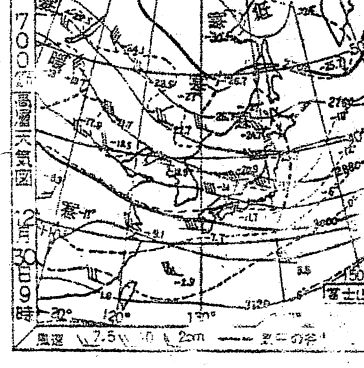
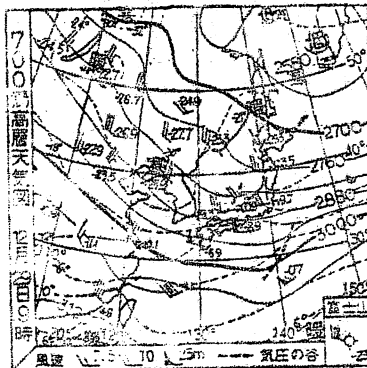
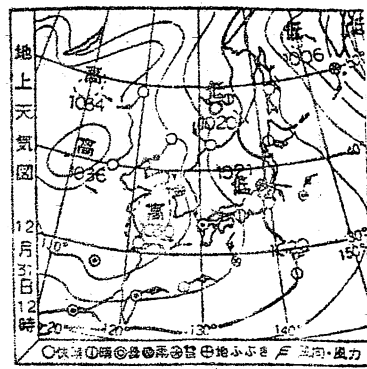
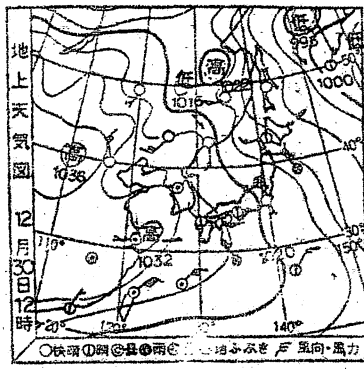
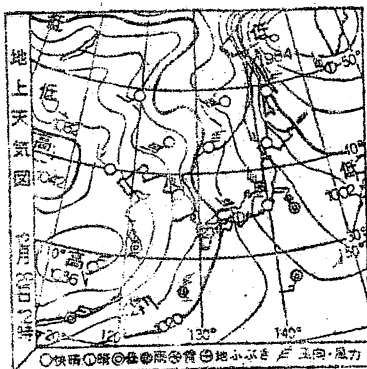


太平洋側は晴れ

12月31日



元日は晴れ



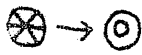
朝鮮半島北部に氷点下30℃の寒気があり、冬型の気圧配置ではあるが、大陸方面の気温は一時期にくらぐるといく分上昇してきている。中国東北上空約500m付近には氷点下42℃以下の寒気があり、冷え込みは厳しい。あまり外に出なかつたので、外の天気はよくわかりません。たぶん、すいと雪だつたので

北日本を弱気圧の谷が通過中のため、北陸から北では、冬型が強まってきた。しかし、次の気圧の峰が直ぐよってくるため、悪天もあまり長続きしそうにない。午前中は、入口の除雪のため外に出るが、目を開けてみると、つらなりのほどの風雪である。

夜、弱い気圧の谷が通過。アムール川流域には氷点下30℃の寒気があつて南下中、北日本方面ではまだ厳しい冬型がもうしばらく続くとのこと。出発時、風雪ともに強いが目は少しあけられるくらいに回復。三保尾根に入り風は弱まったものの、大粒の雪がボロボロ落ちてくる。視界も500mくらいに回復する。

1985年

1月1日



晴正



世は正にお正月

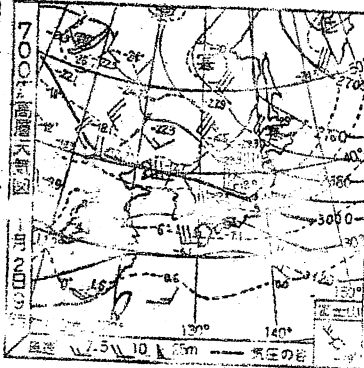
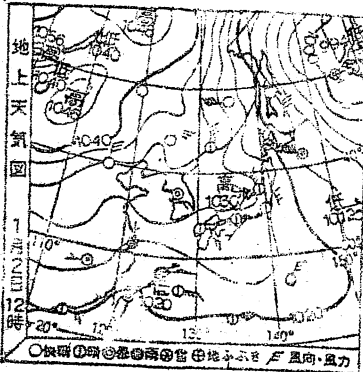
新聞屋さんも気象白ま

お休みです。

1月2日



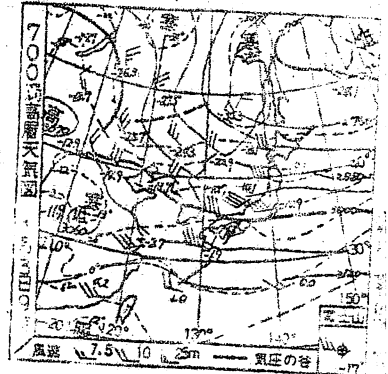
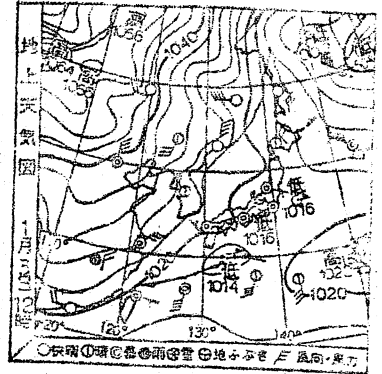
ぐずつりた天気



1月3日



ふたたび冬型に



東シナ海に前線をともなうた低気圧が発生す。黄河河口付近にあった高気圧の移動で冬型の気圧配置は大きくくずれ、視界約500m、風はそれほど強くないが雪はあがかわらず降り続ける。標高を下げるにいたが小雪になる。夕方、ほんの少しではあるが青空を見るこができた。

北日本を中心に伏せつづき強い寒気が流れ込むが、関東以西では大陸方面からの気圧の谷の深直につれ寒気はゆるみつつある。このう東シナ海に発生した低気圧は本州南岸を東進中。前日よりさらに標高を下げるにつれ雪がうれに変わる。雲下に出たため視界はよくなく、風もほとんどなし。標高400m付近で約10cmの雪が雪の上につもっている。最近になつていふりにまた月が裏にきれりだった。

低気圧は太平洋南岸を通過、大陸から優勢な高気圧が張り出てくる。気圧配置はふたたび冬型になる。しかし、寒気の中心はズリ一時寒さはやわらいた。出発時雪なし、高雲あり。列車に乗り大町付近で十数日ぶりの太陽の光をあびる。

V. 個人の反省

岡 行動中ワカンがしょっちゅうはずれたり、また体力的にも余裕がなかったのので度々遅れしてしまった。テン場についてからも、もっと積極的にパーティーとしての仕事をやるべきだった。

川端 準備・整理等に時間を食いすぎた。稜線における風雪、アイゼン歩行に対してあまり練習にならなかったのが残念だった。地域研究が足りなかったのと、現地で地図を見る余裕がなかったのので現在地点等、地理的な把握が出来てなかった。あんきもが食べなくて残念だった。

三野 個装の整理がおそく、先発のラッセルに加われなかった。調子が悪い日のテント設置をトトロやっていた。Essenの時の雪とりを他の1年にたくさんやらせてしまった。岡くん、川端くん、すみません。

大前 今回は典型的な冬型により例年にない大雪にみまわれ、途中下山という結果に終わってしまった。そのため、ラッセルによるきつさはあったが

1日の行程距離が短かったため、それほどの疲労感にはしなかった。個人としては体力的には満足いくものだったが、技術的にはこれからのことを考えるとまだまだ不足しているように感じた。今後の課題としてルート・ファインディングをしっかりと身につけて、いかなる状況においても適格な行動がとれるようにしたい。

角谷　とにかく雪が多かった。半年間のブランクのため体力的に不安があったが去年よりさらに軽量化されたのと、ラッセルが深くスピードが上がらなかつたので1年のときよりは楽だった。ラッセルだけの山行になってしまったので後半戦緊張感がうすれてしまった。1年にもできるだけ注意したつもりであるが不足であったと思われる。あと、Fixすべきかどうか、ホワイトアウトのときのルートファインディング、天気予報などまだまだ勉強すべきだろう。

水谷　2年生としてまだまだ技術的、知識的に努力が必要である。三保尾根の下りでも地図がなかったこともあるが、現在位置がわからなかつたし、雪庇の危険性に対しても注意が必要だった。

下級生にも適切な指示を下せる知識と余裕が必要。

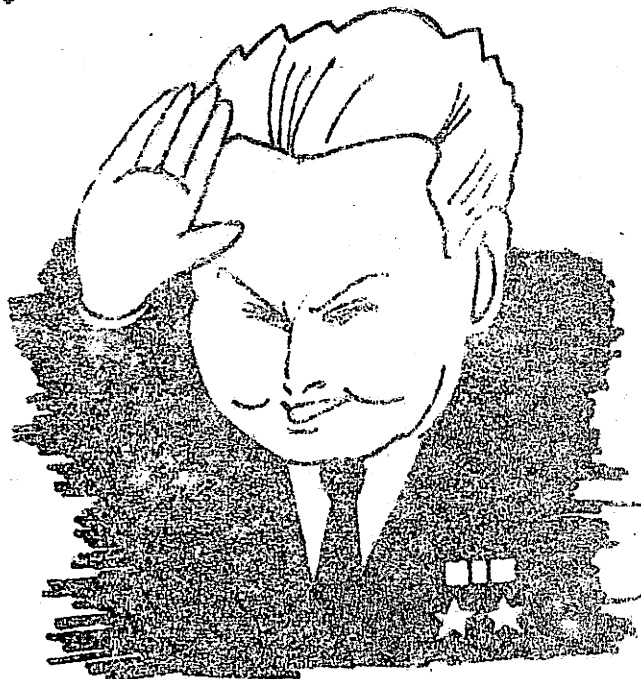
森 体力的にそれ程シビアな合宿ではなかった
せいか、体力面では乗りきれた。しかしながら、
来年から自分達が中心になってやってくれるかと
考えた場合はなほだ心もとない。例えば、ルート
ファインディング、高層天気図、ルートワーク等の面
についてである。未だに4年生に頼り切っているの
である。これから自覚して山行を積み重ねていかね
ばならないと思う。

中村 今回の山行では今まで一度も経験した
ことのない冬山を体験できて非常に勉強に
なった。又、色々問題の多い山行であったことも
事実で今後への教訓として2度と同じまちがいを
おこさないよう十分反省したい。

古賀 遊ぶところは遊び、真剣にやるところは
しっかりやる、そんな切り換えがうまくできる
山行にしたかったが、多分にタレすぎた。もっと
ルート・ファインディング、ルートワークを先頭にた
てやるべきであった。

(藤田さんの個人の反省の原稿は入手できず。
鷹取さんの個人の反省は次章"冬山の統治"に含まれ
ます。)

SOVIET UNION



BLANK

Ⅵ 冬山の総括 (鷹取)

今年度の冬山合宿は予想以上の積雪等の気象条件によるところが大きく、計画していたルート^の全てをこなすことは出来なかったが、この合宿で得られた経験はよき反省材料となった。

以下に後日のリーダー会でお出された反省等を列記していく。

1. 計画立案段階において

1) 立案する時期が遅く、情報の収集が充分できなかった。これは全てのことに影響を与えた。1ヶ月程度から立てはじめた方がよいだろう。

2) Escape ルートの不備があった。考えられる Es. ルートは全て計画書に記載する。

3) 計画の進め方、Escape の考え方等が下級生に十分に伝わっていなかった。実際の行動で下級生が自分で考えることが出来ない。

4) 米を入れ忘れたダンバコが1つあり、パッキングは確実にチェックして行ないたい。

5) 事前は Essen (登・レーション)、装備を除々に準備していたため 1日 で準備が終ったことは、色々な面でのよいことであった。

2. 計画実行段階において

1) 計画書に記載していない エスケープをとったこと。かつその Escape についての詳細が不明であったこと。また、現地でそうした判断をしたこと。

2) 気象、地形の条件が悪かったとはいえ、ルート・ファインディング・ミスにより 少々危険な状態になったことがあった。ルート・ファインディング力不足といえる。

これらのことは いずれも 初歩的なことといえる。もっとも初歩的なミスが大きな事故につながることも忘れてはならないが、～ 全員無事下山することができた今、この経験を今後には生かしてもらいたいものだ。

信州大学山岳会.

Pre冬 & 冬合宿 報告書

S.A.C

発行者: 信州大学山岳会

発行所: 信州大学山岳会松本支部

発行日: 8, FEB., '85

Shinshu Univ. Alpine Club